

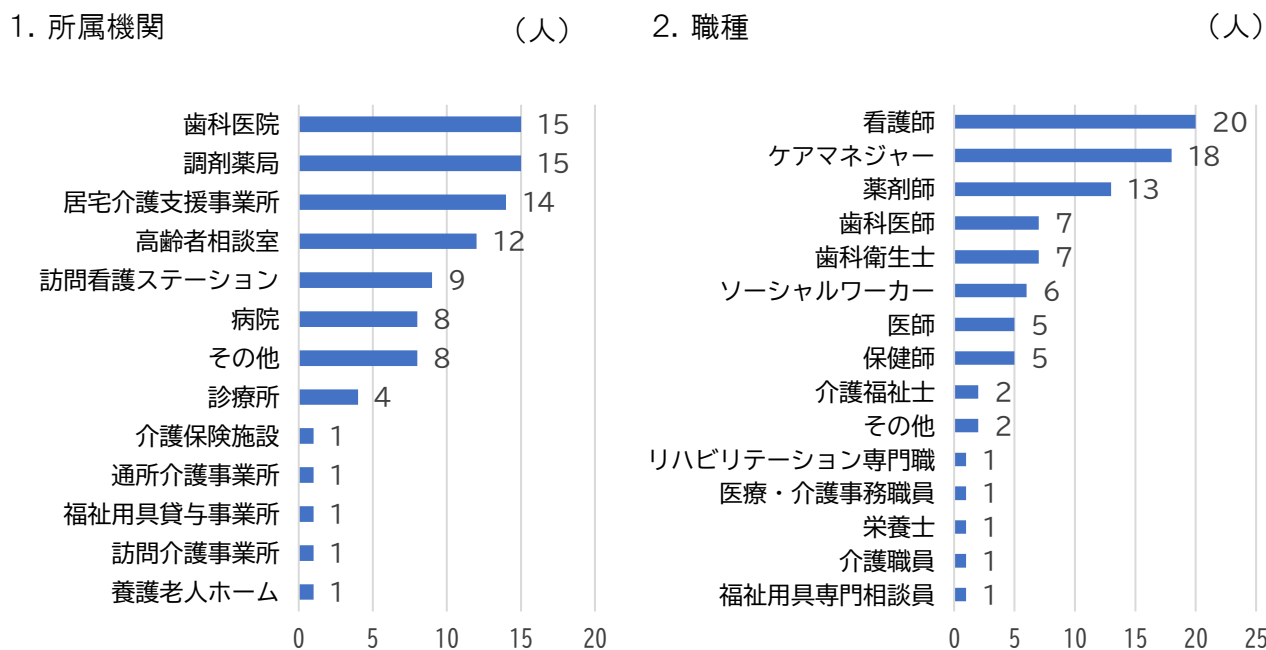
令和6年度 第4回 在宅療養を支えるスタッフのための多職種連携研修会
多職種でつむぐACP～人生会議が「わかる！」から「できる！」へ～ 基礎編アンケート結果

日時 令和6年10月4日(金) 18:30～20:30

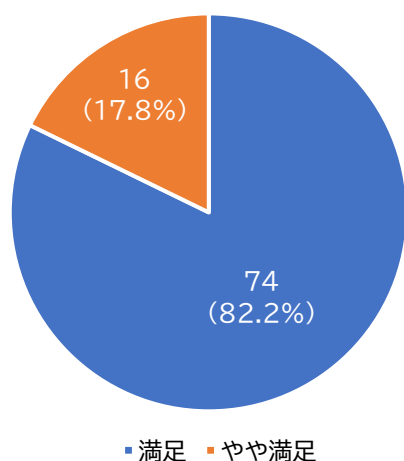
場所 呉市役所2階 201・202・203会議室

参加者数 会場:35名 WEB:87名 計122名

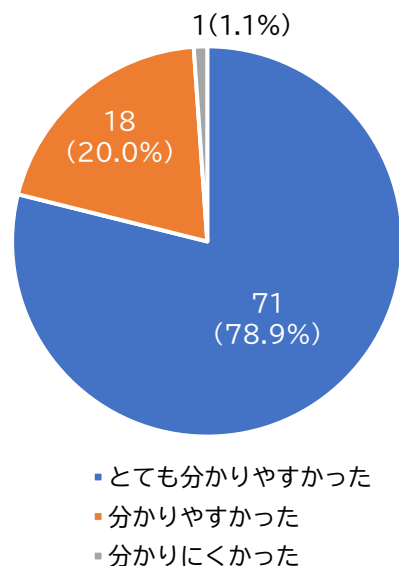
アンケート回収数(回収率) 90名(73.8%)



3. 本日の研修はいかがでしたか。



4. 基調講演の内容はいかがでしたか。



5. 理解が難しかった点があれば、具体的に教えてください。

- ・ケアマネとしても意向を聞くタイミングは色々あるが「食べられなくなった時にはどうしたいか」「胃瘻は？」等と、ケアマネごときが医療的なことは質問しにくい。医師がしっかりと聞いたり答えたりする方が本人や家族にとっても理解しやすいと思ったりする。なかなか1人にゆっくり時間をかけられないのも難しいところ。
- ・すべて楽しくよく理解できた。
- ・医療行為を減らすほど経営は厳しくなる。お寿司やお出かけ支援は素晴らしいが、どのように経営を維持しているのか、他の法人でも可能か、経営については触れられなかったので疑問に思う。
- ・音声が届くようになった
- ・会議に関わったときに、生死に関わることでどのような文言で患者様に声かけしたらいいのか、ストレートに死について声かけすることは考えてしまう。
- ・在宅医が確保できない場合、在宅での最期は難しいのでしょうか。医療資源の少ない地域でも何もしない看取りが実現できるのでしょうか。
- ・質問が聞き取れず、講師の返答しか聞きとれなかったのが残念。
- ・人生会議をどの程度の範囲の人間に周知するべきなのかをもう少し教えてほしい。
- ・理解はできましたが、実際に調剤薬局を利用している患者との遣り取りを想像すると、どのようなタイミングで話を切り出せるだろうか。

6. 基調講演の中で一番印象に残ったことは何ですか。

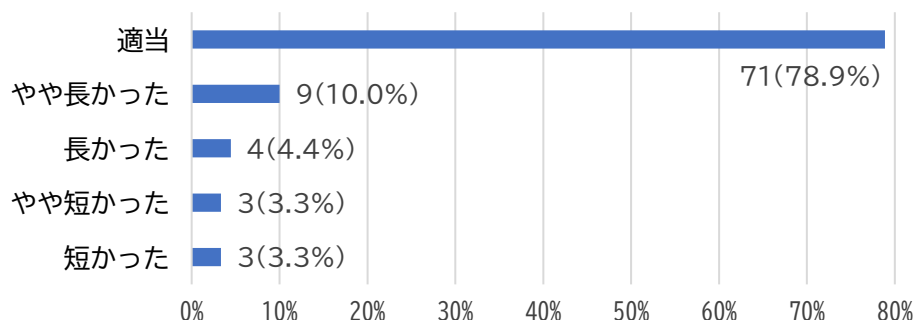
- ・各種動画、看取りの時に点滴をしない、最期まで食べることを諦めない、亡くなる瞬間はみなくていい
- ・ACPの実践ビデオ
- ・各動画があったので、実例で実際にみせて頂けたので、たいへん勉強になりました。
- ・亡くなる瞬間はみていなくてもいい
- ・点滴や吸引を中止することで食事がとれるようになるとは知りませんでした。最後の瞬間に立ち会わなくて良い。患者さん自身が苦しまずに最後を迎えることを第一に考えることの大切さを改めて感じました。
- ・人生会議の様々な事例
- ・楽に死ねるかが大切で、死ぬ瞬間に立ち会わなくて良い
- ・最後の瞬間を見なくてよい
- ・逝き方が生き方という言葉が印象に残った。希望をいくらでも変えてよいということも聞けて少し安心できた。
- ・口から食べれる幸せ。悔いのない行動。
- ・医療職も本人とともに死に向き合うこと。納得出来る最期に向けてなんども話し合うこと。
- ・看取りの質を高める
- ・研修医の感想文です。
- ・亡くなる時に一緒に居られなくてもいいんだと言うお話です。
- ・看取りの最期の瞬間みていなくても良いと言うこと。このような声かけができるDrが増えると在宅で看取りを希望する家族が増えると思いました。
- ・他医院で食べられないとされた人が食べられるようになっている点。
- ・91歳の男性がビールとお寿司を食べてとても幸せそうな顔をされていた事。
- ・ケース3の独居の方の人生会議。
- ・会いたい時に会ったらいい、死に目に会えなくてもいいと言われていたこと。点滴をしなかったら食べれるようになることまた、大きな声が出る人は食べれるようになると言われていたことです。
- ・看取りの時に点滴をしない。全く同感です。
- ・たかが1時間されど1時間
- ・人生会議の事例がありそれに実際のかかわりを見せて頂いたことが、とても良かった。

- ・亡くなるときをみなくていい
- ・最期に立ちあえなくても良い
- ・なくなる瞬間は見ていなくてよい。楽に逝けるようにしてあげることが大切。
- ・点滴して吸引の講義
- ・死に目に会わなくても良い。独居でも自宅で亡くなる事が出来る。
- ・亡くなる瞬間はみていなくてもいい。家族が看取りに間に合わなかった時、そばに居させてあげられなかったことに申し訳なさを感じていたが、前もって会いたい人に会わせてあげて、本人が楽な状態で亡くなるのが大切だということを、家族に説明しておくことが必要なのだとわかった。
- ・看取りのときに点滴をしない 早すぎるACPIはない
- ・亡くなる瞬間を誰かが見るのが大切なのではなく、本人が楽に逝くことが大切であるということ。
- ・横浜市のムービー
- ・嚥下機能の考え方
- ・実際のケースのビデオを見れたこと
- ・88歳の妹さんが、「私は看ませんよ」よ言ったときに、先生が言った「僕らが全部看ますから」は、医療者としてその人の人生を請け負った覚悟がないと言えないなあと思いました。
- ・「亡くなる前に点滴はいらない」
- ・実際のケースの紹介映像(ムービー)
- ・看取りの立ち合いに関して
- ・実際の患者様、利用者様に対応されてた動画、アニメがすごく印象に残りました。
- ・「なくなる瞬間はみていなくてもいい」
- ・看取りに必ずしも誰かが立ち会わなくてもいいこと。
- ・在宅での看取りで点滴をすることは私自身反対でした。吸引に関しても反対でした。そのことは、私はその人の病気から逃げており、何もしないから訪看として訪問する意味がないのではないかと思っていました。でも、先生の話聞いて、心が楽になりました。
- ・点滴をしなくなったら食べるようになること。
- ・研修医のかたの感想の朗読
- ・たんぼぼ寿司が印象に残りました。亡くなられたときに、一緒にいなくても良い。悩まれている方が沢山いらっしゃるのだと理解しました。
- ・丁寧なゆうの森での人生会議
- ・患者さんの考えは常に変化すること、当然のことだが、繰り返し何度でもお聞きする姿勢が大切と感じた
- ・食べられる人は大きな声を出して食べたいものを言えるといったところ。
- ・死について その場に居あわせなくても問題ではない いかにも楽に満足して死を迎えたかが問題だということ
- ・独居での看取りの要点3つに、一番大切なことは「本人が楽に逝けること」 医療者 支援者の声掛け「これで良かったんですよ」に どれだけ遺族が救われるか。 いっぱい話し合うことが大切ということがどういうことかが今日の事例や先生の話で理解できた
- ・在宅医療は人工呼吸器は使わないこと
- ・患者さんの実際の声、映像などが印象的でした。あの「ええのお」「最高じゃ」の声は聞きたい言葉です。
- ・治すことではなく、どうしたら素敵に自分らしく生きれるか。
- ・「家族等を看取る際に、亡くなる瞬間はみていなくてもいい」という永井先生のお話と、それに関するたんぼぼクリニック研修医の先生に関するエピソードが印象に残りました。
- ・生きると逝く
- ・医療をしすぎない、死にどう向き合っていくかが大切

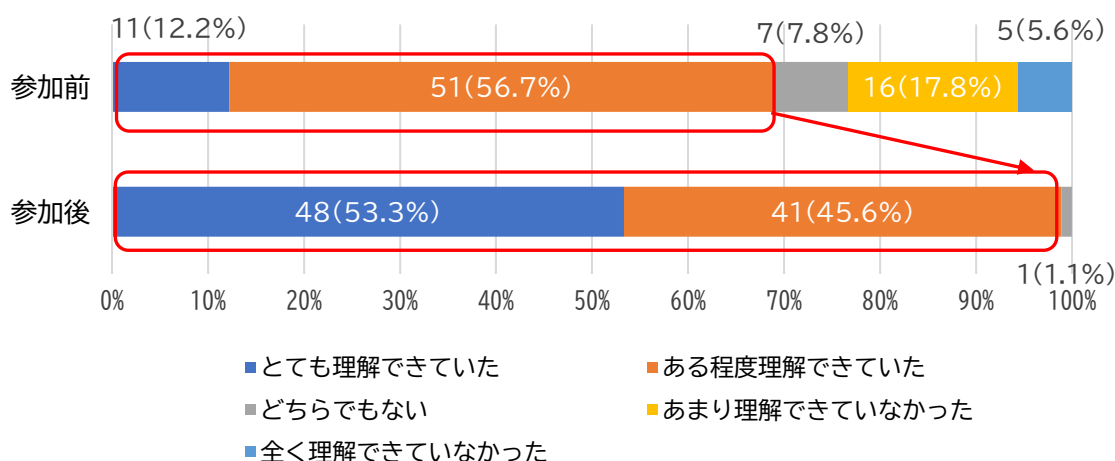
- ・なくなる瞬間はみていなくていいという言葉は、ご家族さんに伝えていますが、それを後押ししてもらった気持ちがありました。
- ・実際に本人から話を聞いている場面を見たり、過去の看取りケースを映像で見て知ることで、私も関わってみたい、最期の時間をサポートしたいとポジティブになれた。
息を引き取る瞬間は誰も見ていなくて良い、本人がどれだけ安らかに息を引き取れるかを最優先に、という言葉が自分の考えも変えてくれた。
- ・現在の思いを伺う。意見は変わってもよい。
- ・先生がおっしゃられる言葉が胸にグッと来る事ばかりでした。
- ・死に立ち合わなくても良いという言葉ですね。大事なものは、生きている間に、どう関わるかということだと思います。
- ・点滴をやめたら食べられるようになる可能性があるという事
- ・食べること＝生きること
- ・事例を交えて講義をしていただいたこと
- ・91歳男性のケースにおいて点滴を外した後に食事ができるようになった事、またその表情が印象的でした。
- ・大声を出せる人は、最期まで食事ができること
- ・在宅で看取る事の覚悟
- ・本人に食べる権利を奪っても良いのか？絶食と言うのは簡単。でもそうあってはならない。
なかなか在宅でも、病院や施設でも誤嚥や、食べさせる事での手間や、時間などリスクが優先されているのが、現状だと思います。だからこそ、そうあってはならない。印象に残りました。
- ・食べることに関する考え方
- ・漫画の「されど1時間」という言葉が印象的でした。自分の一番の望みが叶う1時間は何にも変えられない時間だと思いました。支援者側もきっと同じだろうと思います。
- ・ブレていない事
- ・点滴により浮腫や吸引が必要になることがある。看取り最後の時にそばにいなかったということがあってもいい。この2つ
- ・点滴をしないことで、吸痰が必要なくなるなどを知るができました。
- ・やっぱりやりたいことを支援していくことが大事。食事とか外出とか。
- ・本人は意思が1番大切だと言う事を改めて実感しました。また前もって話合う事が必要だと強く感じました。
- ・亡くなる時にその場に誰がいなくてもいいということに気付かされました
- ・意思決定の大切さが事例を通し印象に残りました
- ・なくなる時間はみていなくてもいい
- ・人生の選択肢について限局的な捉え方をしてきたが、その人らしさについて改めて考えなおすことの大切さを感じました
- ・看取る瞬間を見ていなくても良いということ
- ・治療が全てでは無いと感じた。本人の意思をどのように引き出していくかが大切であることに気づけた。
- ・食べたいと意思表示された方の、食事をされた時の顔。自分らしく生きる上でやっぱり食べるということがとても重要な事なんだと改めて実感しました
- ・看取り時に口腔ケアをする機会があまりなかったので、全てのケースが勉強になりました。
- ・最後まで本人の意思を尊重することが大切だということ
- ・看とり時に側に居なくてもよい とおっしゃってくださいました。
最期の瞬間に側に誰も居ないと「孤独死」なのでは、、、と思っていました。
将来的には母を独り暮らしの自宅で看取る事が出来るのか考えています。高齢者が多いご近所さんに最期の瞬間に娘が側に居ない事を理解してもらえるか不安はあります。

- ・特別養護老人ホームで働いていた経験もあるのですが、家族のために利用者様に長生きしてもらった方が良くないんじゃないか？と思いながら仕事をしていました。本人の気持ちを大切にすることの大切さを実感出来ました。ありがとうございました。
- ・『たかが1時間されど1時間』のマンガに感動して泣いてしまいました。
- ・地域包括ケア病棟で退院調整に携わる立場にある為、【私達の仕事は毎日が人生会議】というフレーズが一番強く印象に残りました。
- ・患者の希望に寄り添うと言うのは、ここまでするということなんだと認識できました。
- ・亡くなる時間は見なくてもいいと言うことを利用者家族に説明していなかった事に気づくことができました。

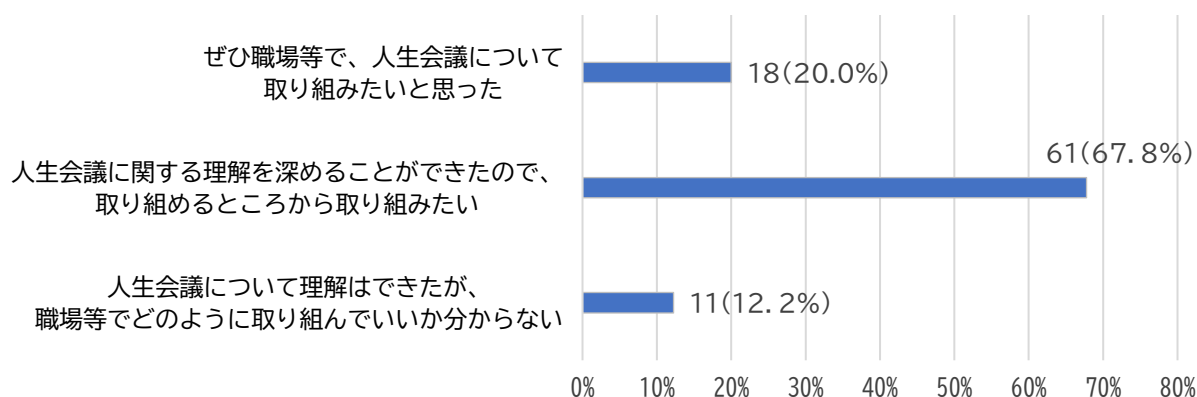
7. 基調講演の時間は適当でしたか。



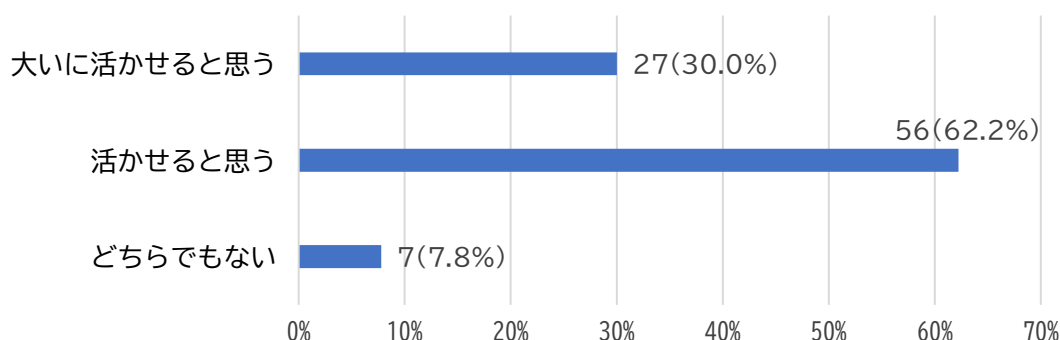
8. 人生会議の理解について、教えてください。(本研修会参加前後の比較)



9. 本研修会に参加し、人生会議に対してどのように感じましたか。



10. 本研修会の内容は、今後の実践に活かされますか。



11. 今後希望する研修会のテーマ等について、自由に御記入ください。

- ・「精神科病院入院されている方の退院支援について」「ケアラー支援」について学びを深めたいです。
- ・AYA世代の在宅医療。
- ・カンファレンスや事例検討会の進め方
- ・医療介護サービス空白地帯の支援について
- ・介護者の負担軽減
- ・看取りに向けて、医療職と家族でどう連携体制をとったらよいのか、お話が聞いてみたいです。
- ・虐待対策事例
- ・呉市内で在宅医療をしてくださる先生がどのくらいおられるのかを知りたい。
- ・行政が人生会議に期待すること、推進する目的
- ・彩りノートの実用性
- ・災害時に向けての取り組み。
- ・終末期看護
- ・人生会議の事例研修に興味があります。
- ・摂食嚥下について。（治療をどのレベルまでやるべきか）
- ・特にありません。色々と勉強させてください。
- ・認知症について
- ・認知症になってから、病気になった場合どうするか？
- ・防災、事業継続計画。
- ・本日、東広島市在住でパリパラリンピックに出場された中西摩耶さんとお会いし、色々なお話を伺いました。中西さんのこれまでの人生が聴きたいです。連絡先知っていますので、仲介可能です。

12. その他、御意見や御感想がありましたら、自由に御記入ください。

- ・お疲れ様でした。たいへん良い学びになりました。ありがとうございました。
- ・録画の音声ははっきり聞こえたが、会場での会話が聞き取りにくかった。
- ・何故か突然zoomにつながった。もう少し、音を大きくしてほしい（一部聞き取れないところがあった）
- ・まず、医師が選択肢を説明し点滴をしないという事も悪い事ではないと本人、家族に説明してほしい。利用者さんに人生の彩りノートについて話していきたい。

- ・呉市の方の声や映像のナレーションは良く聞こえたが、永井先生の音量が小さく聞こえにくかったため、もう少し大きい音量でしっかり聞こえると良かったです。
実際のケースでどう対応したか、その後の家族の声も聞けたのでわかりやすかったです。
先生の自宅での看取りに対しての考え方もわかりやすかったです。ありがとうございました。
- ・永井先生のお話を聞いてとても気持ちが楽になりました。ありがとうございました。
- ・無記名でおねがいします。
- ・本日はありがとうございました。質問の部分の音量が最大にしても聞こえなかった。もっと早くに永井先生の講演を聞く機会があったら良かったと思っています。
- ・もっと実例を聞きたかったです
- ・行政職のため、看取りをされる本人や家族の気持ちや、医療の現状に疎いところがありますが、事例も交えたお話で、とてもわかりやすかったです。貴重なお話を聞く機会を頂きありがとうございました。
- ・看取りの数ではなく質という言葉が身に沁みました。日々の業務に追われていますが、お一人お一人と向き合い人生の最期に携わっていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・本日は、貴重なご講演をありがとうございました。ケース対応では、ご家族の意見になりがちでした。ご本人の思いを最優先に考えることが重要と再認識しました。医療についても本人が楽に過ごせる、点滴や吸引や抑制ではなく、好きな物が食べて、その人らしい時間が過ごせる事が大切だと改めて感じました。
サイダーを飲まれた後の「最高！」の笑顔が印象的でした。
- ・司会者の方やビデオの声は聞こえましたが、ヘッドフォンがなかったので永井先生の声が聞き取り辛かったのが残念でした。
- ・点滴をすることが苦しむ事につながることを今回初めて知った。
- ・医療関係者としてだけでなく、全ての人にとっても、人生会議は重要だと思いました。
- ・大変勉強になりました。明日からの業務に活かしていこうと思います。
- ・ACPはその時ではなく、元気なとき家族と一緒に話せることから考える。
- ・素晴らしい講演をして頂いた永井先生と、きめ細やかな準備で有益な講演会を開催して下さった呉市高齢者支援課の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・zoom参加だったが音声(音量が小さく)が聞き取りにくい場面があった。
- ・永井先生に支えてもらえる患者様は幸せだと感じました。今回の研修中、何度か涙が出ました。永井先生のようなお医者さんと働けたら幸せだろうと思います。ケアマネとして、本人だけでなく家族も支えることができるよう、日々の仕事の中で人生会議についてご利用者様、ご家族様と話しをし、支えてくれている関係機関とも情報共有など行い、少しでも役に立てるよう業務に取り組んでいきたいと思っています。
私が患者であれば、永井先生のようなお医者さんに診てもらいたいと強く思いました。
本日は、貴重なお話しありがとうございました。
- ・素晴らしい先生がいてくださる事が地域の宝だと思いました。
- ・研修会お疲れさまでした。私の母はまだ元気ですが、週1回実家に泊まっています。元気なのになぜ泊まるのか？と言うと、母は「介護が必要になって家に来て貰うよりも、息子の面倒が見れる時に来て欲しい」と言っています。なので実家に戻った時は敢えて、母に私の面倒を全てして貰っています。それが母の元気な源にもなっているようです。介護が必要だから実家に戻るのではなく、何が起こるか分からないから、元気なうちに親と関わることも必要かと思います。そうすれば、永井先生が言われていた、死に際に立ち合えなくても、それまでの関りがあれば、死に納得するのかもしれないね。
- ・音声の聞き取りにくかった 会場の声が小さかった
- ・オンラインだとボリュームが小さく行き来していた。会場の方の質問が聞こえにくかったです。内容は心に響いたので涙が出ることもありました
- ・永井先生も皆さんも常に悩んで考え向き合っているのだと知り、悩む事は当たり前で、何が正解はわからない。だからこそ、本人を尊重し、その人の最善は何なのかを考えていく事が大切なのだと心に響きました。
なかなか、本人の意思は家でと望んでも、周りの知識やサポートが追いつかず、結局は施設に入られる方や、入院したまま帰る事ができない方がまだまだ多いと感じています。また、望んでもそうできないサポート体制にも課題がたくさんあると思います。病院も施設も在宅も多い呉の町で、誰もが自分の望む死の選択ができるような取り組みが必要だと改めて考えるきっかけになりました。本日はご講義ありがとうございました。

- ・映像の音量は問題なく聞き取りやすかったが、講師やほかの方がマイクで話されている内容が聞こえづらく、質問者の内容はほとんど聞き取れませんでした。
- ・看取り期に入り家族でもお互いの気持ちが理解できない時があり、度々衝突します。こちらの都合で本人の意思に沿えていない事が一番辛く、それは家族も同じようです。普段は支援する側ですが、自分事となると全然違いました。先生の講座を聞かせていただき、はっとすることも多かったです。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。
- ・医学部教育でやっておくべき内容かと思いました
- ・ありがとうございました！参加して良かったと思っています。
- ・とても貴重な時間を過ごすことができました、ありがとうございました。
- ・歯科衛生士として人生の会議に参加できる機会はあまりないかもしれないが、家族や周りの人で知らない人がいたら共有していきたいです。
- ・これからも仕事を頑張ろうとモチベーションが上がりました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・以前(10年程前)の講演会で永井先生が『無知は罪』と言われた言葉を戒めに仕事をしています。今日の講演会も多くの言葉が刺さりました。貴重な機会をいただき有り難うございました。
- ・看護師として診療所勤務を経て現在は地域包括ケア病棟に勤務しております。前職では在宅医療にも携わり、知識不足を痛感し悩みながら看取りまで寄り添う日々も経験させていただきました。現職では拙いながらもこれまでの経験や知識を退院調整に活かせればとの想いを胸に奮闘中です。この度の多職種連携研修会を受講させていただき、過去から現在に至るまでの悩みや迷いの答えの一部を見出だせた事を大変嬉しく思っております。それにより、「医療従事者として迷う事を恐れず、患者さんやご家族と共に迷えるくらいもっと踏み込んだ関わりを持ちたい。」という意欲が湧いてきました。11/7の実践編も楽しみにしております。有り難うございました。